

ノート指導

特別な場合を除いては、ワークシートというものを、私は使ったことがありません。子どもによっては、散逸するし、学習した時間列がめっちゃめっちゃになります。教師にとっては、作成するのに時間がかかります。その良さが私には分かりません。

ノートを使った学習こそが基本であり、ノートの書き方を学ぶことこそがあらゆる学びの基礎となると考えます。

では、ノートに書くことを教えるとき、どのような事柄を教える必要があるのでしょうか。

次のように、私はしています。

- 1, B以上の濃い鉛筆を使う。(薄い鉛筆は姿勢を崩し、視力も下げる。またシャープペンには鉛筆の持ち方が崩れるし、折れるので集中力を欠かせる)
- 2, 消しゴムは極力使わない。
- 3, 間違ったら、消さずにxを付ける。
- 4, 線は必ず定規で引く。
- 5, 毎時間、新しいページに書く。
- 6, 日付を書く。
- 7, 教科書のページ数を書く。
- 8, 問題・課題は赤鉛筆で四角囲みする。(その際、上下に余白をつくる)
- 9, 文字を書くときは、字が上下の罫線にふれるように大きく書く。
- 10, 算数では問題と問題の間を1行以上あける。横に書く場合は指2本分あける。

こうした当たり前のことを、初めは毎時間必ず確認します。

例えば日付は、次のような順で指導をします。

- 第1日目 「ノートを開いて写しなさい」といって日付を板書する。
- 第2日目 (チャイムが鳴ると同時に)「全員起立。ノートに日付を書いたらすわりなさい」
- 第3日目 「ノートに日付を書いて、書いたらとなりの人と確認！」
- 第4日目 (チャイムが鳴ると同時に)「全員起立。日付が書いてある人は座る。」バタバタとすわる。「スゴイ!さすがだ!ノートに『エライ』と書いておきなさい」
- 第5日目 (何も言わずに練習問題をやらせ、できた子からもってこさせるときに)「日付は書いてありますか?」と確認する。
- 第6日目 授業が終わってから全員のノートを集めて確認。

こうしたことは、でたらめにやっても定着しません。

意図的に、計画的に、ある段取りを踏んで毎日繰り返すのです。

凡事徹底です。

これらを繰り返して、1ヶ月くらいでようやく定着するのです。

いえ、それでも定着しない子がいるから教室なのです。

そうした子にいとおしさを持って、初めて教師なのかもしれません。

私は教員ではあるけれども、なかなか教師にはなれません。